

財団法人 黒主山保存会

代表者 大田 正樹

所在地 〒604-8165 京都市中京区室町通三条下る烏帽子屋町 497 番地

設立年月日 1987年7月10日

【設立趣旨】

黒主山は日本三大祭りの一つ「祇園祭」の32基ある山鉾のひとつです。貞観11年(869年)に始まったとされるこのお祭りは、京の町衆の心意気と情熱でもって1100年以上守り継がれております。当町内の黒主山がいつ出来上がったかは不明ですが、文献によりますと明応9年(1500年)には存在しており、懸装品には元禄、延宝、正徳などの年号が確認されています。もともと烏帽子屋町の住人が祭りの巡行の参加の為、組み立て、飾り付け、等々を行ってまいりましたが、集団で保有していた土地及び町家、また黒主山の本体、懸装品などの美術品の明確な所有権を事故なく引き継ぐ目的で昭和62年に財団法人になりました。



【沿革】

財団法人になるにあたり、土地所有者の権利放棄(寄付行為)が必要でした。京都市政の施工で土地所有の登記が義務付けられ、とりあえず在住の14名が名を連ねていました。祭りの運営維持には多額の費用がかさむため、町内の空き家を買取り町所有の町家とし、気の知れた人に貸してその家賃収入をあてていました。先人たちの知恵といえましょう。ところが14名の方達はすでに亡くなっていて、相続権者が69名近くになっていたのです。しかも北海道から四国にまで広がっていて、承諾の印鑑をもらうのに理事で手分けしてあつた次第です。非承諾の案件も裁判で決着し、ようやくの思いで法人格を持った組織が出来上がりました。

【活動目的】

- ①八坂神社の祭礼である「祇園祭」に参加
即ち毎年7月1日より始り7月31日に終了する諸行事全てに参加する事。
- ②黒主山の保存及び維持管理
学術的にも大変評価の高い懸装品、つまり、前掛け、胴掛け、見送り等の織物をはじめ、欄縁を装飾する透かし彫りと呼ばれる貴重な金工品、山本体や山を囲む埒(ラチ)等の木部の新調、修理
- ③文化財の展示公開
京都府、京都市の協力要請を受けた場合、もしくは山鉾連合会からの依頼があった時、当財団所有の懸装品の展示公開をする。
- ③新公益法人への移行
すでにスタートされた新公益法人制度に向け、組織並びに会計基準を改革する。
- ④その他、円滑な運営に必要と思われる事案の執行
研修会をはじめ会員の知識、意識の向上を目指します。



【活動内容】

- 7月1日「吉符入り式」
祭礼の開始にあたり町内の関係者が集い、ご神体(大伴黒主像)に拝礼、祭りの無事を祈願する。その後、八坂神社に社参、ご祈祷を受ける。
- 7月2日「くじ取り式」
京都市市会議事場にて巡行の籤を引く (理事長 神事係が出席)

7月13日「山建て」

町内に山本体と埒等木部の組み立てを行う。(業者に依頼)

7月14日「山飾り付」

収蔵庫から懸装品を取り出し町会所に展示する。普段はマンションのロビーとして使用のところに畳約40枚を敷きご神体を安置、周囲に懸装品を展示する。また、屋外にテントを設置、厄除けのちまきや関連商品の販売を始める。

14日～16日「宵山」

午前10時頃より午後11時頃まで懸装品の展示とちまき等の販売をする。国内のみならず海外からも大勢の観光客が押し寄せ、連日20万人前後が狭い地域に溢れる。町内の一角にテントを設置して環境NPOに提供し、カン、ピン、ペットボトルの分別回収を手助けし町内の美化に努める。

7月17日「山鉾巡行」

午前7時より全員が集まりご神体と懸装品を山に飾り付ける。午前9時頃町会所を出発、袴を着たお伴約20名が付き添い、くじ通りに巡行に参列する。午後2時頃帰町、全員で片付け作業にはいる。終了午後5時頃

7月18日「木部の撤去」

円山の収蔵庫に木部を運搬し、収納する。(業者に依頼)

7月25日頃「反省・慰労会」

祭に関わった全員が集まり、祭事の反省をし、その労をねぎらう。

7月31日「疫神社夏越祭事」

祭の終了を報告し、茅の輪をくぐり夏越しの無事を祈願する。(代表が参加)



【活動上の課題と今後の展望】

日本で一番規模の大きい祭りであり、人的、金銭的負担が際立っている。新調品の製作に3000万円近くかかり、公的支援があるにしろ更なる援助が必要と思われる。まち中での従来からの状況が急変し、旧来の住人が減り、マンション住人が増えている。言葉は適当でないにしろ所謂「新住民」の祭行事の参加促進が急がれている。ただ、仕事その他を差し置いてでも祭りを一番に優先してきた旧住民とのギャップは否めない。

幸い、金銭的にはマンションの賃貸収入があり安定した収益が見込まれ、人的にもマンション住民の参加が進んでいるので当面の危機感を持っていない。

今後はこの体制を守り、会員個々のモチベーションを高め、神事と観光の両面を持つこの祭りに積極的に参加し他の保存会の規範になるような努力が必要。